

Person on Topic

INTERVIEW

地域産業を考える…①

林業支える若い力の育成に注力 自信と意欲高める教育環境整備



株式会社 高橋林業 代表取締役
たかはし まさお
高橋正二氏

神奈川県出身。地元の湘南高校を卒業後、山梨県庁林務部の職員として30年間林政に従事。なかでも林業改良指導員(Ag)として12年間、山梨県内の林業改良普及の助言や指導にあたる一方、退職後は森林組合の参事を2年間務め、林業経営のノウハウを高める。1999年に『株式会社高橋林業』を設立。経営基盤の強化に努めると同時に、手厚い福利厚生を整えて人材育成に情熱を燃やし、林業のイメージ刷新に意を注ぐ。

株式会社 高橋林業

☎ 042-689-2848
㈹ 042-684-9610
㈹ 神奈川県相模原市緑区牧野8772
✉ takahashi-forestry@honey.ocn.ne.jp

社員9人の「スクエアにパソコンが一台ずつ置かれている」。『株式会社高橋林業』代表取締役高橋正二さん的人材育成を重視する姿勢を象徴する光景だ。1980年のピーク時、産出額約1兆円、従事者約1・4万人だった林業は、この36年間で3分の1に減少、手入れの行き届かない森林の荒廃が進む中で、後継者を育て、山を救うことに力を注ぎ、成果を示してきた。

「精英樹(エリート)から種を探取し、育てた苗を1haに3000本植え、下刈、除伐、枝打、間伐などの保育作業を実施しながら成長や形状の良い木を残して育てるのが現場の仕事ですが、そのための設計や出来型管理も行えるように教育

しています。職人につきもの3Kのイメージを払拭したいとの思いからの教育です」

国内の林業従事者の平均年齢は52歳だが、同社は20~30代を中心。社長の思いが社員を鼓舞し、3人が林業技士、4人が流域森林管理士、6人が林業作業士の資格を取得、現場作業と事務を通じて技術と知識の集積を進める。

「資格取得には「スト」がかかりますが、林野庁の「緑の雇用」事業をフル活用しながら社員を教育しています。資格や研修を受けるために給料が下がっては意味がないので、月給制にして諸手当の充実をはかり、仕事とスキル向上に専念できるようにしています。また、資格や研修を受けることにより、以前より事故や災害が確実に減少しています」

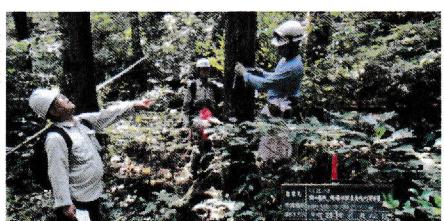
山と共に歩んで今年で60年、環境保全、防災に資する林業を発展させるために必要な若い力に向ける眼差しは、やさしい。(ライター／斎藤祐)



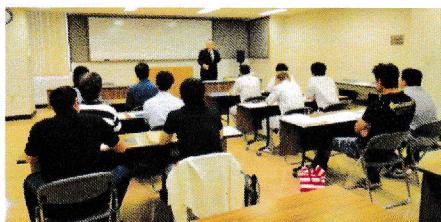
会社事務室



測量指導



選木(間伐)作業の指導



林業研修会(講師として)

林業の夢とロマンを求めて60年
現場と事務もこなす力を身につけさせ
若者的人材育成に愛情を注ぐ



伐採作業の指導